

小児医療に携わり30年

今月のキリビとは、常石秀市さん。若井町の山間に建つ医療型障害児入所施設「医療福祉センターきずな」で院長をされています。2つある療育棟には80病床の入院患者の受入れができ、外来診療にも力を注ぎます。小児神経専門医としての長年の経験から「子どもの様子を見れば大体わかる」と語る常石院長に、医師を目指したきっかけ、日々の診療や診療理念、そして医療センターきずなの特徴などについてお話しを聞きました。



なしに鳴り続ける医療用PHSに対応するため席を外しました。

志す契機は伯父

「すみませんでした。医者になっただけですかね」。席に戻ると常石院長から優しい口調でそう話し出しました。「伯父の存在ですね。物心ついた頃から事故で脊髄損傷になって歩けなくなった伯父を見てきたんです」。その時からハンディのある方を助けてあげたい、幼いながらにそう思ったといい、小学生だった常石少年は、ハンディのある伯父を見てきたことがきっかけで、医者になる夢を持つようになりました。

昭和55年4月、夢を叶えるため、神戸大学医学部に進学し、大学院を卒業後、神戸大学小児科の小児神経の医師としてキャリアをスタートさせます。

最初は新生児集中治療部門の担当医。生命の危機的状況にある新生児を治療ケアする、新生児集中治療室（NICU）での勤務です。「わずかな対応の遅れが赤ちゃんの生命に影響しますから。常に緊張の糸が張りつめた厳

です。20年ぶり。何か縁を感じますね」。

原動力は使命感

午前8時から1日が始まりますが、患者のリハビリチェックや外来診療などスケジュールは分刻みで入っています。また、各市町が実施している定期健診にて再検討を必要とされた子どもたちに精密健診や就学指導をしています。こうした出張健診は、北播磨以外にもたつの市や丹波篠山市など広範囲に亘ります。なぜそこまで引き受けるのかを聞くと「子どもたちの顔が真っ先に浮かびます。それと使命感ですかね」と微笑みました。

「発達外来の喜びは、歩けないと思った子が歩けるようになったり、できることが増えてきて成長が見えることがうれしいんです」。続けて「親も親らしくなる。それも見ていて楽しい。障害をきちんと受け入れて頑張っていく姿を見るのが一番のやりがいですね」。ポリシーは、過度な期待は持たず現実を伝えることだといいます。「障害を理解して患者に合った接し方をしないと伸びない。障害をその子の個性として接するのは私は違っていると思います。弱点を補う接し方を心掛けてい

喜びは子の成長

に参加された方が、在宅で頑張っている医療的ケアを必要とする子どもたちの応援団として関わってくれるようになるのだそうです。

親が子に興味を

一番問題なのは親が子どもに興味や関心を持たないことだといいます。「ユーチューブを子守りに使したらだめ。一方的に見るだけで考えないから言葉が出ないんです。親が子どもに興味を持ち、声を掛けて関わるのが大事」。そして障害を持つ子については、「親が理解をして受け止めること。神経質にならずに大らかに接する。過去を持ち出して注意せず、こうしてほしかったのになあ、こうしたらうまくいったんちゃうん？」という諭し方をするんです。難しいけど」と優しく笑います。

最後に、今年度から加西市も子育て世代

お風呂にも携帯

医療福祉センターきずな。ここには日常生活を送る上で医療的なケアと医療機器を必要とする、重症心身障害児・者80人が入院しています。医師3人と職員150人で24時間・365日体制で支えています。

「夜は当直医が担当します。患者の特徴をよく分かっている常勤医とオンコールという形で対応しています」。オンコールとは、緊急時に駆け付けたり、電話で看護師等に指示をすることです。「毎日、お風呂にも携帯電話を持って入ります」と休まる時がありません。

また、発達に障害のある子どもたちが自立した生活を送れるように支援する療育訓練も提供しており、1日に30〜40人の患者がセンターを訪れます。「初診時には1人90分ぐらいじっくり話を聞く、こういう外来が良かったんです。親御さんもすごく苦しんでいるから、子どもだけではなく親を鼓舞しています」。

「居」を構えた加西市の印象を聞くと「院生時代に加西病院でアルバイトをしていた



大学時代は、ワンダーフォーゲル部に所属

キラリびと vol.12

常石秀市 Syuichi Tsuneishi

昭和36年生まれ。丹波市出身。神戸大学医学部卒業後、呉共済病院で2年間研修医として勤務。その後、大学に戻り大学院を卒業し、ベルギー王国や神戸大学病院で15年間「命に携わる」小児医療を提供。平成19年医療福祉センターきずな開設に合わせて院長に就任。医学博士。趣味はプラモデル作りとドラマ鑑賞。 ※撮影時のみマスクを外していただいています。



呉共済病院で（研修医時代）

に重点を置いた施策を実施します。加西市への思いを聞くと、「子育てを充実させるため、若い夫婦に援助をしてもらいたい。明石に負けないように良い施策を打ち出して」と期待を寄せました。

障害の程度の軽重にかかわらず、全ての患者たちが明日に向かう一歩のために、常石院長はできる精一杯の愛情を注ぎ続けます。

すつきり かさい 広報 4月

表紙	01
キラリびと 常石秀市	02
特集	
令和4年度予算	04
かさいの水道物語	08
市政情報	10
TOPICS DXって何?	13
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	20
わくわく子育て情報	25
そうだ!図書館へ行こう	26
おくやみ/各種相談	27
とびだせ!かさいっ子 みんなで使おう加西弁	28

KASAI データバンク

R4.2.28 現在 (前月比)

人口 / 42,585人 (-83)

男 / 20,886人 (-33) 女 / 21,699人 (-50)

世帯数 / 18,154 (-22)

2月の出生数 / 17人 死亡数 / 80人

● 4/6、13、20、27は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)